

健康長寿の まちを目指して

るもいコホートピア構想



「コホートピア」が目指す 健康長寿のまちづくり その①

「予防医療の視点からの健康づくり」

厚生労働省は、2008年より、特定健康
診査制度をスタートさせ、国民に健診と指導
を義務化し、より積極的に生活習慣病や、メ
タボリック症候群の一次予防を進めています。

これは、国が生活習慣病対策について、「医
療の強化」よりもむしろ「予防医療の強化へ
とシフトした現われであり、増え続ける糖尿
病予備軍に対し、予防医学の視点から適切な
アドバイスと、健診を受けて、近づく病の足
音に、早い段階から対処することが重要です。
るもいコホートピアは、これらの国民的な
課題に対し、医師、医学研究者の積極的な参
画により、健康に対する啓発活動や、留萌市
立病院と協力して、学術的な研究活動を展開
しながら、留萌の地から効果的な生活習慣病

の改善策を発信していきたいと考えています。

これまでの医学研究でわかっていることを、
市民の皆さんに正しく伝えながら、皆さんの
健康づくりに役立てていただける取り組みを
目指しています。

「糖尿病とコホート研究」

糖尿病は、放っておくと失明や腎透析につ
ながる恐ろしい病気です。健診で空腹時血糖
が110mg/dlを越えると糖尿病が疑わ
れ、精密検査が必要です。しかしながら、最
近、空腹時血糖が高くない糖尿病があること
がわかってきました。

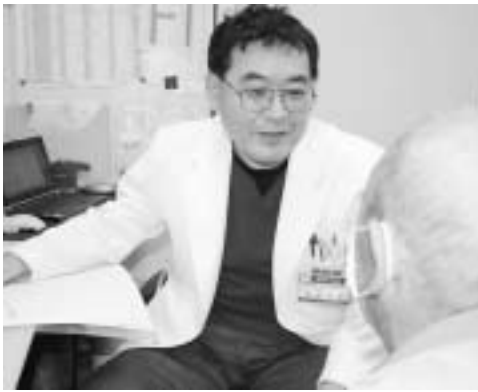
このタイプは、食後の血糖が高い時間が長
く続くことが特徴で、「隠れ糖尿病」と呼ばれ
ています。放っておくと本物の糖尿病になる
のに、健診ではわからないのです。

このような糖尿病を見つけ出すのに、あら
じめ住民の皆さんの協力を得てリスクの高
い方を選び出し、さらに糖付加試験などを行
い、糖尿病をあげりだして行きます。つまり、
健診でわからない糖尿病は、研究で明らかに
していかなければなりません。さらに、予測
可能な目印を見つけることも、「コホート研究
の重要な対象なのです。」

(札幌医科大学教授 小海康夫)



現在、旧萌明荘を改修し、
7月オープンに向け「る
もい健康の駅」開設準備
中です。
来月号で、詳しくお伝え
します。



留萌市立病院脳神経外科
診療部長 多田 光宏

コホート研究は、医師などの研究者が住
民の皆さんの健康状態を長年にわたり追跡
調査する研究方法です。

「健康をまもる絆(ぎずな)づくりを」

長期間にわたる医師と皆さんの信頼関
係と、「絆(ぎずな)づくりが欠かせません。
私は、皆さんの「絆(ぎずな)」をつく
り、コホートピアの理念実現に向けて、4月
から脳神経外科医として留萌市立病院に
やって来ました。

るもいコホートピアは、コホート研究を
通じて、皆さんの健康を守る絆をつくるこ
とを目指しています。

地域医療を巡る環境は、大変厳しいもの
があり、留萌市立病院のみが皆さんの健康
を守るではありません。

地域で安心した生活を送れるよう、病氣

の予防、初期の治療、回復期のリハビリ、介
護とさまざまな「絆=連携」により皆さんの
健康を守る仕組みをつくりたいと考えてい
ます。

現在私は、留萌市立病院の救急医療体制
を充実させようとしています。皆さんが安
心できる拠り所がなければ、絆をつくるこ
とは難しいと思うからです。

7月以降は、「健康の駅」を中心に、各地
域で皆さんの健康の相談にに応じていける体
制をとっていきたいと思っています。

気軽につきあえること。それが「絆」づく
りのはじめです。